



「清流長良川流域の生き物・生活・産業」連続講座
第1回 今を生きる 逞しき伝統美
“鵜飼：川漁”

写真：小瀬鵜飼の模様

開催日時 平成27年10月31日（土）
13：00～16：30

主 旨

本連続講座は、長良川の魅力を流域全体として学び、理解し、地域で協力する行動を支援しようとするものです。

長良川流域では、川を中心とした生活が営まれ、産業が発達してきましたが、他方で伝統漁法の継承は川漁師の高齢化や後継者不足に悩まされています。「清流長良川の鮎」は、国連食糧農業機関（FAO）世界農業遺産の登録手続きが進んでおり、鵜飼はアユの伝統漁法として有名ですが、東海地方には国の重要無形民俗文化財に指定された長良川鵜飼（岐阜市）、小瀬鵜飼（関市）の他、木曾川うかい（犬山市）の3か所があります。

第1回は、「今を生きる 逞しき伝統美 “鵜飼：川漁”」と題して、小瀬鵜飼、木曾川うかいの鵜匠さんらにおいでいただき、鵜飼という鮎の伝統漁法を中心に川漁の魅力をお聞きしたいと思います。

会 場

愛知大学名古屋キャンパス 講義棟9階L902教室
名古屋市中村区平池町4丁目60番6

主 催：愛知県

お問い合わせ先 愛知県振興部土地水資源課

電 話 052-954-6121

Eメール tochimizu@pref.aichi.lg.jp

企 画：愛知県長良川河口堰最適運用検討委員会 流域チーム

プログラム

1 あいさつ 13:00

愛知県知事 大村 秀章

2 第1部 お話を聞く 13:10~14:30

流域としての長良川と世界農業遺産 裁 成人氏 (岐阜新聞論説委員)
小瀬鵜飼の魅力 岩佐 昌秋氏 (小瀬鵜飼鵜匠)
座敷鵜飼の実演 木曾川うかい鵜匠チーム

(休憩 10分)

3 第2部 わいわい談義 14:40~16:20

進行役: 原田 さとみ氏 (タレント/エシカル・ペネロプ株式会社代表取締役)

出演者: 岩佐 昌秋氏 (小瀬鵜飼鵜匠)

中山 文夫氏 (長良川中央漁協副組合長)、木曾川うかい鵜匠チーム

大橋 亮一氏 (長良川漁師)、平工 顕太郎氏 (長良川漁師/結の舟代表)

コメンテーター: 高橋 勇夫氏 (たかはし河川生物調査事務所)

4 閉 会 16:30

出演者プロフィール

裁 成人氏 [岐阜新聞論説委員]



同志社大学文学部新聞学専攻卒。岐阜県警キャップ、岐阜新聞・岐阜放送中濃・美濃加茂総局長、岐阜県政キャップを経て岐阜放送報道部長に就任。続いて岐阜新聞編集局副局長兼報道部長を経て、岐阜新聞編集局副局長兼論説委員兼編集委員に就任。現在は岐阜新聞朝刊第1面のコラム「分水嶺」を担当している。

岩佐 昌秋氏 [小瀬鵜飼鵜匠/宮内庁式部職鵜匠]



日体大卒。昭和43年から高校教諭を務めるかたわら、父親の手伝いで昭和45年頃から鵜舟に乗り始め、昭和50年頃に鵜を操る。平成5年に宮内庁式部職鵜匠の辞令を受け、高校教諭との二足のわらじを履く。現在は高校教諭を退職し、小瀬鵜飼鵜匠として、その文化や魅力を伝えている。

木曾川うかい鵜匠チーム



平成4年より大山市経済部観光課男性職員3名、平成24年には東海地方で初めてとなる女性鵜匠として大山市観光協会職員を雇用し、4名の鵜匠でうかい事業を実施している。平成14年度からは大山市・各務原市の共同開催とし、名称を「大山うかい」から「木曾川うかい」とした。夜空に浮かぶ犬山城を背景に、かがり火で赤々と染まる川面を下る屋形船で、食事をしながら鵜匠の手さばきを間近に見ることができる「木曾川うかい」漁法は、350年余りの伝統を誇る。平成15年から実施している昼うかいも好評。

中山 文夫氏

[長良川中央漁協副組合長]



8歳の頃から父親と共に長良川で漁に携わり、夜川網漁歴はおよそ30年。現在63歳で夜川網漁の第一人者。平成12年より長良川中央漁協組合副組合長。

大橋 亮一氏

[長良川漁師]



1935年に岐阜県羽島市で生まれ、現在も長良川で漁を続ける80歳の現役漁師。愛知県長良川河口堰最適運用検討委員会委員を務める。

平工 顕太郎氏

[長良川漁師/結の舟代表]



鮎漁を営むかたわら、結の舟代表として観光客や子供たちに長良川の魅力に触れる体験型の船旅を提供。鵜飼のシーズンには鵜匠代表の舟を操る。

背景: 木曾川うかい (昼うかい) の模様

次回開催予定

会場: ウィンク愛知 (予定)

日時: 平成28年2月21日 (日) 午後

テーマ: うなぎ